

2026（令和8）年度 津市立三重短期大学
一般選抜（法経科第1部、食物栄養学科、生活科学科）
英語・国語 正解一覧／小論文試験 解答例

《英語》

(1)	3	(2)	4	(3)	4	(4)	2	(5)	3	(6)	3	(7)	4
(8)	3	(9)	4	(10)	3	(11)	2	(12)	4	(13)	4	(14)	2
(15)	5	(16)	1	(17)	3	(18)	3	(19)	2	(20)	2	(21)	1
(22)	2	(23)	5	(24)	3	(25)	3	(26)	2	(27)	3	(28)	2
(29)	3	(30)	3	(31)	2	(32)	2	(33)	1	(34)	2	(35)	1
(36)	4												

《国語》

(1)	3	(2)	5	(3)	5	(4)	4	(5)	2	(6)	3	(7)	5
(8)	5	(9)	2	(10)	4	(11)	5	(12)	3	(13)	4	(14)	4
(15)	1	(16)	4	(17)	1	(18)	1	(19)	3	(20)	5	(21)	4
(22)	4	(23)	5	(24)	2	(25)	3	(26)	1	(27)	5	(28)	2
(29)	3	(30)	4	(31)	3	(32)	4	(33)	2	(34)	1	(35)	1
(36)	4												

《小論文》

どの項目においても女性は男性に比べて割合が多い。特に③「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」は女性 73.1%に対して男性 57.9%と 15.2 ポイントの差があり、②「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」は女性 71.9%に対して男性 57.2%と 14.7 ポイントの差が見られる。これらの結果から、家庭や子育てを担うために、残業ができるだけ少ない仕事に就いた方がよいと考える女性が男性に比べて多い傾向が読み取れる。

その理由として、家庭や子育てを担うのは女性であるというジェンダー・バイアスがあると考えられる。学校教育では家庭科も男女分け隔てなく学ぶが、社会の意識や職場環境が追いついていない。そこで、家事や子育てを男女で共同して行うロールモデルをアピールし、社会の意識や職場環境を変えていくことで、誰もが自分自身のキャリアと家庭や子育てに主体的に関われる社会作りをしていくことが重要である。

(399 文字)